

第5節 原種,根粒菌などの配布

国の補助をうけて実施されてきた水稻,陸稻,大豆,トウモロコシなど主要作物の原種生産は終戦によって国の補助が打切られたが,県費によって,継続された。しかし,昭和27年の主要農作物種子法の発足にともない,再び国補事業としてとりあげられたが,この間サツマイモは21年,トウモロコシは24年,陸稻は44年で採種が打切られた。また,大豆は47年に打切られたが,水田再編対策にともなう栽培面積の増加で55年から再び原種生産が開始され,ビール麦も40年から新しくとりあげられている。このような主要作物の原種生産は,本場,富岡分場,池田分場で行われていたが25年には,原種生産専門の久勝原種圃が設置され4場所で行われたが,需要量の低下や,試験場の移転拡充にともない,44年には久勝試験地が,46年には富岡分場が吸収合併され,主として本場に対応することになった。しかしその後の需要量の増大によって,51年から協町で委託採種を行っている。

一方,野菜類は昭和18年の農林省の必需野菜生産確保奨励費の全国国費補助と県単事業の2本立てでダイコン,ソラマメ,ホウレンソウなどの原種生産を行ったが,国補採種は22年度で打切られたため,全部県単事業で生産を継続し,24~25年頃にはダイコン,ハクサイ,ゴボウ,キャベツ,キュウリなどの採種が行われた。しかし,その後の民間種苗会社による優良種苗の出廻りで昭和29年以後は農試で育成されたダイコンの採種だけとなり,33年まで継続されたが以後種苗協会に移管され,現在まで継続されている。

この間30~32年,藍住分場でキュウリ,スイカの採種が行われたが新品種の採用などで中止された。また,昭和27~28年板東園芸試験地で,デントコーン,スーダングラスなど6種類の牧草の原種採種が行われている。